

令和7年度第6回 印西市市民活動推進委員会 会議要旨

1. 開催日時 令和7年10月1日（水） 午前9時～午後4時30分
2. 開催会場 コスモスパレット・パレットⅠ マルチルーム・会議室1・2
3. 出席者 戸川和成委員長、木名瀬昭一委員、小野ひとみ委員、上田一生委員、宮本楓美子委員、田揚正子委員、山川信一委員、奥田信康委員、市川弘委員、田口由紀絵委員、棚橋明委員 （以上11名）
4. 事務局 市民活動推進課・小作課長、浅山課長補佐、金子係長、諫見
5. その他参加者 市民活動支援センター2名
6. 発表者 提案者15名（午前の部7名、午後の部8名）
（市関連部署 保育幼稚園課・稲富、高花保育園・川島園長、子ども家庭課・小森谷係長、山内、都市整備課・木村係長、野村、環境保全課・増田係長、浅井、劉、市民活動推進課・千葉井係長）
7. 傍聴者 議題（1）印西市情報公開条例第7条第1項第5号の規程により、非公開
議題（2）公開0名
8. 会議内容
 - 1 開会
 - 2 議題
 - （1）企画提案型協働事業 公開審査会（最終審査）／スケジュール及び評価の確認について
 - （2）企画提案型協働事業 公開審査会（最終審査）
 - 3 閉会

9. 会議要旨

2 議題

（1）企画提案型協働事業 公開審査会（最終審査）／スケジュール及び評価の確認について

《事務局説明》

・次第、資料12、13、15、16、17に基づき説明。

《委員質問・検討》

・公開審査会のスケジュール及び審査方法を共有。

・付帯意見の集約方法を確認。委員会を3グループに分け、7提案を分担して模造紙に集約し、グループリーダー委員が講評すること、また全体講評を委員長が行うこととした。

・各提案における質問事項の調整を行った。

（2）企画提案型協働事業 公開審査会（最終審査）

・公開審査会は午前の部と午後の部の2部制で開催。

- ・ 午前の部は自由提案型 3 件、午後の部は指定テーマ型 4 件の審査を実施。
- ・ 各プレゼンには関連部署も同席し、提案者とともに質疑応答に対応。

【午前の部】

①プレゼンテーションの進め方と審査方法等の説明

②プレゼンテーション

【提案 3】 年中、年長カラダづくりプロジェクト

提案者の発表

提案者はパワーポイントを使い、提案内容について説明を行った。

質疑応答

（質問 1）経費内訳書の歳出項目①の人件費で年長児は 2 万円、年中児は 1 万円となっているがこの違いは？ また令和 6 年の協働事業の結果で表 1 を見ると、A,D 保育園での運動後（閉眼）が運動前（閉眼）より悪くなっているが、なぜか？

（提案者回答）年中児に関しては別日で出張する形ではなく最後の 6 回目の際に、年長児が終わった後そのまま事業を実施する流れになっているので、人件費を半分にしている。測定はみんなと一緒に並びながらとっており、子供たちの気が散ってしまったり、周りから邪魔が入ってしまったりと、測定環境に原因もあると思っている。

（委員）集中力を上げるために、どんなことを考えているか。

（提案者回答）8 年度に関しては、測定しない方向で動いている。集中力を上げるためには、動いたら休むというオンオフをつけることが重要だと考える。

（質問 2）交通費 3 人の内訳を教えてください。

（提案者回答）指導者 1 人とアシスタント 2 人である。

（質問 3）協働事業計画書の中の「事業の周知方法」が記載されていない。事業の周知方法はどのように考えているのか？

（関連部署回答）園長会で事業の詳細を決定した後、対象の 5 歳児の保護者には、キッズコネクというシステムを使って、周知を行っていきたいと考えている。

（質問 4）実施回数が 5 園×6 回ということは、1 園当たり 2 か月に 1 回ということになる。効果との関係で適切な回数か？

（提案者回答）公立保育園ではこの事業以外にも、運動が楽しいと思うきっかけづくりのための、各種プログラムを設けている。そのためこの事業 6 回だけで、運動能力向上を行っているわけではない。また先ほど団体から説明があったが、令和 8 年度は効果測定を取り止めて、園児に体づくりのきっかけとなるものを楽しんでもらう事を、主目的としていきたいと考えている。

（質問 5）バランスボールに限った効果測定だとどのぐらいの回数が、一番効果が出るのか。

（提案者回答）回数は多ければ多いほうがいいと思っている。私立の保育園では月に 1 回程度行っているが、先生方からも違いが出てきているというコメントをいただいている。ただ園の方で

もその他のプログラムや行事がある中で、今年度また6回実施できることは嬉しく思っている。その6回の中で体幹強化や運動が楽しいと思っただけのように、プログラムを組みたいと考えている。

（質問6）こういった活動は指導者がいる形でしかできないのか、それとも将来的には各園だけで実施できるのか。普及面に関して考えを伺いたい。

（提案者回答）医療用バランスボールは1つの値段が約5000円である。それを園で用意していただくとなると金銭的負担が生じる。また準備片付けの手間、保管場所の問題もある。また医療用なので効果がある分、間違った使い方をしてしまった場合が一番怖い。そのため保育士や保育経験がある者が、指導するのがいいと考える。

（質問7）保育園の先生方から、測定結果以外に変化が見られた点について、何か意見等あったか。

（提案者回答）今年の夏は特に暑く、外遊びがほとんどできない状況だった。そのため運動不足でイライラしている子や、喧嘩が多かったと聞いている。しかし事業実施後は、給食をよく食べるようになった、お昼寝の入眠がすごく速い、心が安定して過ごせるようになったなど、好意的な意見を聞いている。

（質問8）経費内訳書の「プログラム」について伺いたい。講師料と別項目にしているのは理由があるか？理学療法士の方の監修費用という意味か。また提案書のメリットの欄で「データいんぎいの数値低下への貢献につながる」という部分について、説明してください。

（提案者回答）プログラム作成費用に関しては、理学療法士は外部から入れているのではなく、メンバー内に理学療法士が在籍している。実施園等、改善点を見直した上で、来年度のプログラムを作成し、それを理学療法士に監修していただいている。そのため理学療法士の監修代も含んだ形で積算している。またデータ印西の数値低下については、小学生のデータをもとに書かせていただいた。そちらのデータは最近のものではなく、コロナ禍前の測定結果となっているが、運動習慣の減少により、印西市だけでなく全国的に数値が下がっているという、理学療法士の見解があった。

（委員）具体的に何の数値が下がっているのか。

（提案者回答）理学療法士に確認してからご返答という形でもよろしいか。申し訳ありません。

【提案4】虐待予防事業「子育てを学ぼう！乳幼児期から始める子どもの心のコーチング」

提案者の発表

提案者はパワーポイントを使い、提案内容について説明を行った。

質疑応答

（質問1）令和7年度実施事業は実施途中だが、「成果と問題点」を簡単に述べてください。

（提案者回答）ついこないだ乳幼児期6回講座の1回目があり、参加者は20人であった。そのうち5組が夫婦での参加だった。お母さんだけでなく、夫婦で同じ時間を共有して同じ思いで間

題について考える場所になっていると思う。課題については男性が育児休暇を取れない家庭では、母親の方にかかなり負担がかかっている。育休が取れないのが当たり前だった時代は良いが、よその家庭が育休をとっているのになぜ私だけという、ワンオペ問題はある。そういった格差も生まれてきていると思う。

（質問２）虐待や体罰の発生件数や発生率は分かりますか？

（関連部署回答）虐待の発生件数については、令和６年度児童虐待の相談件数として２５１件となっている。特に市として発生率の把握はしていないが、令和６年度の年度末の１８歳未満の児童人口を当てて数値を計算すると、約１．２％という数字になる。

（質問３）参加人数の目標値を募集人数の６割としているのはなぜか。昨年は周知・広報に課題を感じられていたと思うが、どのように改善するか。

（提案者回答）有料講座だと８割ほどだが、無料講座だと募集人数の６割ほどしか参加しない傾向にある。４割の人は参加しない。この事業に関しては人数を絞って、繋がりをつくるということを重視している。また参加者は皆小さなお子様がいる家庭なので、突然不参加となってしまうことがある。

（関連部署回答）周知については、昨年度の課題としてもあった。講座自体は良いものの、６人しか参加者がいなかったことは、市としても残念に思う。今年度は母子保健係が実施している、生後４ヶ月までの乳児のいるすべての家庭を訪問する「こんにちは赤ちゃん訪問」の際に、チラシを配っていただいている。また１歳未満の乳児を対象とした子供の相談の案内を郵送しており、そちらにチラシを同封するなどしている。また市の公式ＬＩＮＥとＸを活用してみたところ、LINEを見て申し込みをしたという保護者の方も多くいたので、SNSの活用は大事だった。

（質問４）市の事業として実施していることを、協働事業でも行う理由を教えてください。

（関連部署回答）令和５年度までは市の単独事業として単発講座を実施していた。現在は、類似事業としてこの協働事業だけになる。協働することで連続講座として実施でき、より効果的に事業を実施できる。

（質問５）実施方法に関して、ニーズに合わせてオンライン・対面の両方で実施可能とあるが、対面の場合の実施場所はどこか？

（関連部署回答）今年度はコスモスパレット・パレット２の会議室で行っている。

（質問６）運営側の人数は不足していないか？

（関連部署回答）メインメンバーは２人だが、チームメンバーは９人いる。足りない場合は全国各地から協力してくれるので、事業を実施できる体制は整っている。

【提案５】市民参加で守る別所谷津公園の谷津の生態系

提案者の発表

提案者はパワーポイントを使い、提案内容について説明を行った。

質疑応答

（質問1）運営側の人数は不足していないか？OECM 認定や自然共生サイトへの登録は、具体的にどんなメリットがあるか？

（提案者回答）機械化とマニュアル化することを考えている。またイベントを実施し、たくさんの人に自然の中で遊ぶ楽しさを知ってもらい、その中で1人でも2人でも活動に協力してくれる人を募りたいと考えている。企業連携をするにあたって、OECM 認定は必要なものだと思っている。当団体は2つの企業と連携しており、どちらも国際的な企業である。

（関連部署回答）OECM の登録については環境保全課が所管になるが、市としても OECM 登録をすることができれば、企業に向けてアピールをしていけると考えている。市でも2ヶ所 OECM 登録している実績がある。

（質問2）来年度で事業は終了するが、その後はどう考えているか。例えば指定テーマを希望するか。

（提案者回答）私たちの方はこの事業を継続していきたいと思っているが、今後については都市整備課と相談して進めて行きたいと思っている。

（関連部署回答）指定テーマについては、現在もこの事業は7年度実施中という状況がある。その状況を十分加味し、今後団体と協議していきたいと考えている。

（質問3）トンボやホタルなどの生き物を増やすための試行錯誤をされているが、必ずしも成果が出ていないとのこと。農業の衰退や台地の開発がその要因とのことだが、それに対してはどのような活動を行っているのか。

（提案者回答）指定テーマ型で取り組んでいる協議会に入って、どんなことができるか検討したり、耕作放棄田で米づくりをしたりしている。

（関連部署回答）市においては関係課が集まり、グリーンインフラに対しての取り組みを検討中である。具体的に今後どうしていくかについては、その取り組みの中で検討していきたい。

（質問4）今後里山の保存については、市外の人を巻き込むことも重要な視点だと思うが、そういった取り組みをグリーンインフラではできるのか教えて下さい。

（提案者回答）既に実施している。大学を通じて知り合った若い人たちと、耕作放棄田のグリーンインフラの実践をしている。

（関連部署回答）先ほど申し上げたグリーンインフラの会議で、今いただいた意見も含めて、伝えておきたいと思っている。

③審査結果午前発表・講評

【審査結果】

提案 番号	事業名	適	否	結果 (適/否)
3	年中、年長カラダづくりプロジェクト	10	1	適
4	虐待予防事業「子育てを学ぼう！乳幼児期から始める子どもの心のコーチング」	11	0	適
5	市民参加で守る別所谷津公園の谷津の生態系	11	0	適

【講評】

提案毎に、担当の市民活動推進委員会委員より講評を行う。

【提案3】年中、年長カラダづくりプロジェクト

- ・こどもの運動能力に寄与する活動として、意義のある事業だと思います。
- ・室内でも体幹を楽しくトレーニングできる活動で、こどもの体力づくりの手段として評価します。
- ・運動の楽しさを伝えるという目的に対しての、効果測定の方法についてよく検討してください。

【提案4】虐待予防事業「子育てを学ぼう！乳幼児期から始める子どもの心のコーチング」

- ・虐待予防は社会の要請に見合った活動であり、継続的に行うべき有意義な事業だと思います。
- ・イベントの周知方法に工夫がみられた点が評価できます。
- ・3歳～中学生まで、年齢幅がある親御さん達を集めた良さを打ち出すと、課題解決に向けた有効な手法の一つになると思います。

【提案5】市民参加で守る別所谷津公園の谷津の生態系

- ・谷津の生態系維持は地域社会が抱える課題として、継続的に取り組む必要があると思います。
- ・国際的に注目度の高い自然共生の取り組みであり、精力的な活動をしていると評価します。
- ・「市民参加で守る」ならば、市民に周知できるイベントの実施が必要だと思います。

【総評・午前】

委員長より総評がある。

・行政だけでは対応しきれない問題について、市民の目から何ができるかが重要。年中、年長カラダづくりプロジェクトは、子供の発達をどう促すかということについて、協働事業で取り組むからこそ、行政とは違う視点で実施できていると思っている。虐待予防事業は、未然に防ぐにはどうしたらいいかということについて取り組んでいる事業である。また谷津の生態系に関しては、どう保全していくか。周囲の人たちを巻き込むことを含めながら、持続可能性について考えないと

解決できないと思う。応援しております。

【事務連絡】

今後の予定として、本日の審査結果を文書にて、各提案者に送付すること、また本日の結果に基づき、採択候補事業の選定結果を委員会から市長に答申し、市長が採択事業を決定後、来年度に向けて予算化、また事業の実施のための具体的な準備に入ることを説明。

【午後の部】

①プレゼンテーションの進め方と審査方法等の説明

②プレゼンテーション

【提案6】竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業

提案者の発表

提案者はパワーポイントを使い、提案内容について説明を行った。

質疑応答

（質問1）指定テーマとして続けられる予定ですか。

（関連部署回答）この事業は平成21年から維持管理を行っており、木下地区を代表する愛着のある場となっている。問い合わせも多数ある。実は維持管理を協働事業ではなく、業者にやっていただくという選択肢もある。市では公園約130、緑地が約70、合計で約200ヶ所を、全体12ブロックに分けて管理委託している。この管理委託の中に竹袋調整池も含めて管理することも可能である。ただその場合、今までのような形で残せない可能性もある。そのため現時点では指定テーマで続けていく方針である。

（質問2）1回当たりの参加人数が15人から20人ということだが無償での参加か。

（提案者回答）有償である。

（質問3）全部で何人ぐらいの方が関わっているのか。

（提案者回答）今は理事が11名、賛助会員が20名近くいる。

（質問4）若い方が参加しているようだが、きっかけについて教えてください。

（提案者回答）職場が近くにあり訪れた日が、たまたま活動日だった。私としても月に1回土いじりをするのはいい機会だと思い、そこから活動に参加している。

【提案7】グリーンカーテン大作戦！「CO2を減らそう！ストップ温暖化大作戦！」

提案者の発表

提案者はパワーポイントを使い、提案内容について説明を行った。

質疑応答

（質問1）脱酸素は非常に難しい問題。「CO2を減らそう！ストップ温暖化大作戦！」というのは少し大き過ぎるタイトルで、グリーンカーテンとCO2削減が実際は直結しないのことはもう知られ

ている話。シンプルに掲げることが、環境理解のミスリードに繋がるのではないかと心配をしている。そこについてはどう考えているか。

（関連部署回答）確かにグリーンカーテンの設置でCO₂が減る量というのは、他の色々な対策の中では小さいものかもしれない。しかし環境教育とセットにし、特に小学校への出前講座のような形で実践することで、脱炭素に対しての意識啓発を図り、今後の暮らし方を見直す機会にもなると考えている。

（委員）グリーンカーテンの効果は、空調の電力が減ること以外はあまり意味がない。きっかけ作りも重要だが、そんな簡単な問題でもないということを何らかの形で伝えていくことは、環境を理解する上で必要だと思う。その伝え方にぜひ注意をしていただきたい。あとタイトルは検討する必要があると思っている。環境教育のところを少し工夫してください。

（質問2）提案理由の中で「環境意識があまり高くない市民にとってグリーンカーテンの効果を実感すること、楽しんで参加できることがポイントであると言える。」とあるが、グリーンカーテンの効果を実感は何をもって実感出来るか。

（提案者回答）登録、エントリーしていただいた方にアンケートを約5項目実施しており、その中で効果を把握している。具体的には単純に涼しくなった、電気代が少し去年より低くなったなどがあった。あとは子供たちが家族と一緒に取り組むというところに、一定の効果があると実感を持っている方がいる。

（委員）グリーンカーテンでなくとも、日陰をつくれれば同じ実感を得られるのかなと思う。グリーンカーテンはあくまでも1つの手段ということで、環境意識を高めるやり方もいいと思う。

（提案者回答）仰る通り。戸建てに住んでいる方は取り組みやすいと思うが、マンションに住んでいる方は、なかなかハードルが高いと思う。私たちはグリーンカーテンを1つの手段として提案しているが、他の関係団体の活動も含めて色々な選択肢があるということを、ホームページやSNSで発信していきたいと思う。

（質問3）今のメンバー数を見ると1人1人の負担が大きいと思うが、仲間を増やしていくことについてはどう考えているか。

（提案者回答）3年ほどこの事業を運営しており人手不足ではないが、これから事業を広げていく中で、他の地域の団体や環境系の活動をしている方との取り組みというのは必要になってくると思っている。グリーンカーテンの市内の設置数については、チラシの配布をする中で少し調べている。例えば東の原でも100件近く設置している所もある。成功者がいると拡大している印象がある。各地域に成功して楽しくやったださる市民の数を増やすことが、次のステップだと思っている。

（質問4）小学校の出前講座で、CO₂の重さを重りにして持たせてみるという体験は面白いと思う。そこから電気をこまめに消そうという行動変化まで起こしているのは素晴らしい活動だと思った。種の配布が1700、学校の出前講座の参加者が500名に対し、コンテストの参加人数が減ってしまっているのがもったいない。CO₂削減が主目的だと思うが、副次効果の心を育てるこ

とだとか、一緒に家族でコミュニケーションを取る事も大事な要素だと思う。コンテストの応募数はKPIの1つになると思う。コンテストの応募に繋げるための連携は組んでいるか。

（提案者回答）コンテストの連携はほぼ無く、課題と感じた。まずは出前事業から入り最終的にコンテストに応募していただくという形で参加者数を増やすことが、事業として必要だと思った。来年度担当課とも相談して、出前講座の内容について見直し、学校との連携を進めていけたらと思う。

【提案8】里山の水循環と生物多様性の保全及び地域活性化のための官民連携事業

提案者の発表

提案者はパワーポイントを使い、提案内容について説明を行った。

質疑応答

（質問1）協議会メンバーは発足時の3団体に加えて現在プラス1団体が新規参加とあるが、最終的にどの位の協議会メンバー数を考えているのか伺いたい。

（提案者回答）提案書に書いてある3団体と我々で立ち上げて、里山保全に深く関わっている団体が現在は10個ぐらいある。保全団体の方、企業の方、農業者の方それぞれ視点とか考え方が微妙に違うので、いきなり協議会に入ってもらって連携しましょうというのは、多分うまくいかないと思う。ただ今後は年に2回、団体の悩みをお互いに共有するというような参加の仕方もあると思う。

（質問2）市民団体の中間支援組織としての役割は理解するが、一般市民との接点について、総事業費の規模から期待するところよりは、少ないように感じる。その点について何かお考えがあれば伺いたい。またこの活動をするにあたっての各団体の負担感について教えて下さい。

（提案者回答）まずは市民活動団体どうしを繋げることに力を注ぎたいと思っている。ただ仰る通り、最終的な目標は印西市の緑をよい状態に保ち、それを知って頂く必要があると思っている。イベント1回と、ホームページでの情報発信、他のイベントに共催で入るなど、いくつか手段は持っているので、情報発信に力を入れていきたい。後継者問題などの人手不足については協議会で取り組んでいて、一番課題に思われている。新たな人に参加してもらうための仕組みづくりについて考えている。市民活動団体の課題を解決して、楽しく活動していただくのが目的なので、協議会の取り組みの中心に据えてやっていきたい。

（質問3）多くの項目で見積金額が高いと思う。他団体のように積算根拠に時給を用いたり、作業内容に相応しい人日に見直したりすることはできるか。

（提案者回答）時給を採用するつもりはない。我々のメンバーは現役世代で専門技術を持って仕事をしてる人で、その日は普段の仕事はやらず、こちらの仕事をやってもらっている。一定の報酬がないと、組織としての継続が難しいと思っている。そのため国土交通省の技術者単価の70%を採用している。

（質問４）継続的にこの協議会を運営していくための考えを伺いたい。

（提案者回答）国立環境研究所に科学的にこれだけの効果があるという情報を出してもらい、それを一部地図化して事業の成果にしようと思っている。客観性や科学的根拠があると、企業を巻き込みやすい。

（委員）科学的知見が高い団体であることは認識しているが、事業内容が高度すぎて難しいところもある。それをわかりやすく伝える工夫もして下さい。

（質問５）この事業を協働事業でやろうとした意図は何ですか。終着点は何ですか。

（関連部署回答）団体との会話が重要な事業だと考えている。委託で業者に発注するやり方よりも、実際に活動している団体と一緒に相談しながら協働で実施できる方が、より効果が高いと思う。また印西市の魅力の１つとして貴重な里山があるが、その里山を保全していくためには、保全活動団体の力が重要である。終着点としては団体と行政との連携を密にし、その上で支援していただける企業との繋がりを見つけて、継続的に保全活動が続けられることが目標である。

【提案９】＃私たちの保健室～みんなで繋がり合える印西市を目指して～

提案者の発表

提案者はPDFを使い、提案内容について説明を行った。

質疑応答

（質問１）個別相談支援事業「こっトンカフェ」への来所を増やすための工夫を教えてください。

（提案者回答）保護者向けにはスクリレというツールを使って案内をしている。お子さんに向けては学校でのポスター掲示、イオンのデジタルサイネージ、市役所の行政モニターなど色々な場所で案内が流れるようにしている。またSNS等も利用している。

（質問２）個別相談のターゲットとして「地域住民」と書かれているが、思春期の女性だけでなく多様な方向けに開かれているという認識で良いか。具体的にはどのような方に来てほしいなどがあれば教えていただきたいのと、来にくい方が来やすいようにする工夫などがあれば伺いたい。

（提案者回答）その認識で問題ない。来にくい方が来やすいようにする工夫については、こっトンカフェを開催するに当たりLINEのオフィシャルアカウントを作った。このアカウントで、イベントごとにアンケートに答えていただくとプレゼントを渡すという仕掛けをしている。そうした所LINEに登録してくださる方が増えた。LINEでは個別のやりとりが出来るので、そこからメッセージを送ってくださる方もいる。また来年度からはZOOM等を使ったオンラインこっトンカフェを実施予定。男性が性について話す事はハードルが高いため、オンラインを駆使し個別相談につなげたい。

（関連部署回答）こっトンカフェについては、男女共同参画センターの方にも何件か問い合わせがある。急にこっトンカフェに来て話をする事に抵抗があるという場合には、チラシにLINEやInstagramにアクセスできるQRコードを載せているので、そこからアプローチすることもできる。また会場には広い空間と、個別でお話できるような空間を用意して、来所していただける

ような支援をしている。

（質問３）報償費の外部講師代で４４万円とある。金額が大きいので、どんなことを考えているか伺いたい。

（提案者回答）電極代や健康診断の実施、交通費等含めてそれだけの費用がかかってしまう。企画を考える際に大事にしていることは体験である。広く市民の方々に体験してもらって、深い学びに変えていただくことを狙いとしている。費用はかかるが、それ以上の効果が期待できている。機械は個人個人によって痛みの感じ方が変わるので、ホワイトボードを設置し、どう感じたのかを可視化できるように、シールを張っていただこうと考えている。

（委員）大変目新しい取り組みであり有効性はあると思うが、この事業にお金をかけるのか、それとも講師にお金をかけるのか、来年度は費用について検討してもいいと思う。

③審査結果午後発表・講評

【審査結果】

提案 番号	事業名	適	否	結果 (適/否)
6	竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業	10	1	適
7	グリーンカーテン大作戦！「ＣＯ２を減らそう！ストップ温暖化大作戦！」	9	2	適
8	里山の水循環と生物多様性の保全及び地域活性化のための官民連携事業	8	3	適
9	#私たちの保健室～みんなで繋がり合える印西市を目指して～	11	0	適

【講評】

提案毎に、担当の市民活動推進委員会委員より講評を行う。

【提案６】竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業

- ・市民の憩いの場の維持管理は地域社会の要請として、継続的に行われるべき活動であると評価します。
- ・協働事業として行うことで、市民の主体的な参画の場がつくられていると思います。
- ・将来の運営体制としてこの事業に関わる若い人が、増えていったら良いと思います。

【提案７】グリーンカーテン大作戦！「ＣＯ２を減らそう！ストップ温暖化大作戦！」

- ・グリーンカーテンをきっかけとし、ＣＯ２削減のための行動変容が期待できる事業であると評価します。
- ・学校等に協力を得て、コンテスト応募につなげるような工夫をして下さい。
- ・ＣＯ２削減の効果を示すのは難しいと思われるため、心の成長や貢献等の効果を示せるようにし

てください。

【提案8】 里山の水循環と生物多様性の保全及び地域活性化のための官民連携事業

- ・グリーンインフラの保全は継続的に行っていく必要があり、各市民団体間の中間支援組織の活動は意義のあるものと評価します。
- ・事業規模から考えて、企業との連携も視野に入れてください。
- ・協議会のメンバーを拡大していくための、具体的な施策について期待します。

【提案9】 #私たちの保健室～みんなで繋がり合える印西市を目指して～

- ・LINE やオンラインツールの効果的な活用を評価します。
- ・単発のイベントだけでなく、毎月のこっトンカフェの開催は、有意義な活動であると思います。
- ・性別・世代を超えた広がり期待するとともに、必要な方にアプローチできるよう市との連携を強化してください。

【総評・午後】

委員長より総評がある。

- ・審査を実施するにあたって経費の適正さや、事業の効果について考える重要な時間だったと思う。今日の委員からの意見は、事業実施のための参考にしていただければと思う。良い事業になるように、課の方たちと協働して取り組んでください。

【事務連絡】

今後の予定として、本日の審査結果を文書にて、各提案者に送付すること、また本日の結果に基づき、採択候補事業の選定結果を委員会から市長に答申し、市長が採択事業を決定後、来年度に向けて予算化、また事業の実施のための具体的な準備に入ることを説明。

以上

令和7年10月1日に行われた、印西市市民活動推進委員会の会議録は事実と相違ないので、これを承認する。

令和7年10月22日

会議録署名委員 奥田 信康